

## 年間第 28 主日の説教

金 大烈 神父 2011 年 10 月 9 日 (日)

《主の祈りについて ～この祈りにふさわしい生き方をしていますか～》

今日の福音(マタイ 22・1 - 14)は、書いてあるとおりに読めば理解できると思いますので、違う話を分かち合いたいと思います。

カトリック信者が一番多く口にする祈りは何でしょうか。『主の祈り』ですね。『主の祈り』の前には、「父と子と聖霊のみ名によって。アーメン」という十字架のしるしをします。一番多く口にするのは、この十字架のしるしかもしれませんが、一番多く唱えている祈りは、やはり『主の祈り』ですよ。今日は、その『主の祈り』について、皆様があまり考えていなかったことを紹介させていただこうと思います。

南アメリカのブラジルの南には、ウルグアイという小さい国があります。そのウルグアイの、ある小さい小教区の聖堂の壁に書いてあった文章を皆様に紹介します。『主の祈り』についての文章です。

「天におられる」と言うな。

世俗なことだけにはまっているのではないのか。

「私たち」と言うな。

自分のことばかり考えながら生きているのではないのか。

「父よ」と言うな。

子どもらしく生きていないのではないのか。

「み名が聖とされますように」と言うな。

自分の名を輝かすために全てをかけているのではないのか。

「み国が来ますように」と言うな。

物質万能の国を望んでいるのではないのか。

「み心が天に行われるとおりに地にも行われますように」と言うな。

自分の思いどおりになるように祈っているのではないのか。

「私たちの日ごとの糧を今日もお与えください」と言うな。

貧しい人々に知らないふりをしているのではないのか。

「私たちが人を赦したように、私たちの罪をお赦してください」と言うな。

誰かにまだ恨みを抱いているのではないのか。

「私たちが誘惑におちいらせず」と言うな。

罪を犯す機会を探し回っているのではないのか。

「悪からお救いください」と言うな。

悪を見ても、何の良心の声も聞こうとしていないのではないのか。

私は柔らかく訳しましたが、直訳すれば、どの文も「～していないくせに。」となります。たとえば、「子どもらしく生きていないくせに」というように、全部「くせに」がついています。

これは簡単な言葉ですが、このように考えたことはありませんよね。しかし、「この中に、自分にあてはまるものは一つもない」と言える人がいるでしょうか。逆に全部当てはまるのではないのでしょうか。よく考えてみてください。私たちが一番口にする祈りなのに、その祈りの意味からも外れて生きているのではないのでしょうか。

私はこの文章を紹介することで、皆様を叱ろうとしているわけではありません。このようなことを振り返ってみて、「私たちにはそういう面があるのだ。いつも祈っている祈りできえ、実は心はそこから離れているのだ。」と気づいていただければ最高だと思っています。

『主の祈り』のとおり生きることは、不可能かもしれません。それでも、死ぬときまで「このような生き方をしたい」と思えば、心には既に天国が存在すると思います。そして私たちみんなが、「そのような気持ちで『主の祈り』を捧げたい」と思えば、よくなる可能性が与えられるでしょう。

誰が書いたのか分からない簡単な文章ですが、この文章がその教会を訪れた観光客の心を打ち、それが世界に広がったのです。これは、一つの希望が見えることです。この言葉を読んだ人々は、この文章が正しいと分かったから、このような批判的な文章ではあっても心を打たれたのです。だから、これがいろいろな国の言葉で訳されて世界に広がっているのです。それも聖霊の働きだと思っています。

私たちも、もう一度自分の信仰について振り返り、そして今の生き方が本当に『主の祈り』にふさわしい生き方であるか考えてみましょう。

ありがとうございました。